



平成 21 年 1 月 30 日

各 位

会 社 名 JVC・ケンウッド・ホールディングス株式会社
 代表者名 代表取締役会長 兼 CEO 河原 春郎
 (コード番号 6632 東証第一部)
 問合せ先 取締役副社長 兼 CFO 尾高 宏
 (TEL 045-444-5232)

平成 21 年 3 月期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、急速な経営環境の悪化をふまえ、平成 20 年 10 月 1 日付の発足にあわせて発表しました平成 21 年 3 月期（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）の業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 当期の連結業績予想数値の修正（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想（A） （平成 20 年 10 月 1 日発表）	400,000	12,500	7,500	5,000	
今回修正予想（B）	320,000	3,000	△3,000	△15,000	円 銭 △15 51
増減額（B－A）	△80,000	△9,500	△10,500	△20,000	円 銭 — —
増減率（％）	△20.0%	△76.0%	—	—	—
（参考） 前期実績（平成 20 年 3 月期）	823,711	9,521	△4,075	△44,340	

- ・平成 21 年 3 月期業績予想は、企業結合会計上の取得企業である株式会社ケンウッド（以下「ケンウッド」）の平成 20 年 4 月～12 月期（当第 3 四半期累計）業績に日本ビクター株式会社（以下「ビクター」）の平成 20 年 10 月～12 月期（当第 3 四半期）業績を合算したものです。
- ・平成 20 年 3 月期実績（参考）は、ビクターの平成 20 年 3 月期実績とケンウッドの平成 20 年 3 月期実績の単純合計です。

2. 修正の理由

当社では、平成 20 年 10 月 1 日付の経営統合以降、統合効果の早期実現に取り組みながら、米国に端を発した金融不安による経済環境の悪化に対処するため、新たに「収益構造改革会議」を発足してビクターを中心に収益構造改革を推進してまいりました。平成 20 年 10 月 27 日付のビクターおよびケンウッドの中間決算発表時には、それらの効果の一部織り込み、通期業績予想を据え置きましたが、その後、さらに実体経済の悪化や円高の進行をはじめとする経営環境の悪化が進行し、当第 3 四半期業績に大きく影響しました。

当第 4 四半期は、こうした経営環境に対処し来期以降も含めた収益を確保するため、ビクターとケンウッドを合わせたグループ全体として追加施策を実施することとし、平成 21 年 3 月期の通期業績予想を修正いたします。

具体的には、想定レートを従来の米ドル：100 円、ユーロ：130 円から米ドル：90 円、ユーロ：120 円に変更するとともに、ディスプレイ分野、オーディオ分野、カーエレクトロニクス OEM 分野の事業構造改革や、それに

関する生産・販売体制や関係会社などの構造改革、ビクター、ケンウッド、当社での雇用構造改革など、来期に向けて思い切った追加施策を実施いたします。

昨年10月に開始した収益構造改革の進捗と今後の追加施策により当期末までに100億円のコスト削減を目指しますが、想定為替レートの変更や景気悪化の影響を今回修正予想の営業利益に織り込みました。また、この追加施策に要する費用（約200億円）のうち引当金の計上要件を満たす費用（約100億円）については、経営統合にともなう会計上の効果により損益に影響しませんが、残る費用（約100億円）は、主に今回修正予想の当期純利益に織り込みました。

追加施策に関する詳細は、本日発表の「収益構造改革の進捗状況および追加施策について」をご参照ください。

以上

【業績予想に関する留意事項】

ここに記載されている業績予想は、当社グループが現時点で入手可能な情報から得た判断に基づく将来の予想であり、実際の業績は、様々な要素により、これらの業績予想とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。したがって、これらの予想のみに依拠した判断をされることは控えていただくようお願いいたします。